

令和3年度 守山市立図書館活動計画の主な進捗と課題について

1 図書館の役割

図書館の役割は、市民の「知る権利」を保障し、学習を支えることで人々が豊かに幸せに暮らすことを支援することです。

図書館は、少子高齢化・高度情報化・国際化が進展する社会情勢のなかで、市民に多種多様な資料を提供する情報センターとして、また生涯学習を促進する施設としてなくてはならないものであると同時に、学んだことを活かし表現する場です。また、親しみやすく利用しやすい施設としての機能を有し、とりわけ次代を担う子どもたちが幼少期から本に親しむことができ、自ら考え判断し行動し、学び続けながら生きがいを持ち、自己実現できる市民を育てることを使命としています。

2 運営方針

「本と人が出会い、人と人がつながる知の広場」をめざして運営をしています。

図書館は、市民と本との出会いを生み出す場となり、本を通して人と人がつながる場となります。市民が求める情報を的確に提供し、また、来館者が読みたくなるような本に出会うことができるように、多種多様な資料を集め、知的好奇心を刺激するようなコーナーを作り、本を見せる工夫をしています。

また、同じ課題を持っている人達がつながり、発展していく機会を作るためにいろいろな働きかけをしています。そうして市民が集い、高めあい、つながる知の広場（図書館）をめざします。

図書館は、「本の森」をイメージして建設されています。知の宝庫である本に囲まれた空間で、新しい発見に心をときめかせ、古の文化を知ることによって現在の自分を再認識することができるような本との出会いがあり、子どもたちには学校、家庭以外にも安らぎを感じられる居場所として、「本の森」を冒険し心豊かに成長してもらえるようにしていきます。

今後は、さらに読書を通して豊かな生活、人生を送ることができるよう、市民の皆さまがより広く深く読書に関わることができる「読書日本一のまちづくり」に取り組んでまいります。

3 運営方針を実現するための3つの柱

(1) 本と出会い、心豊かに過ごせる図書館

子どもからお年寄りまでが自分の読みたい本と出会い、ゆったりと本が読めるように環境を整備していくとともに、司書がカウンターからフロアに出て本の案内人となります。なお、求める本（資料）を必ず届けることができるように自館にない本（資

料)は、他の図書館および関係機関と連携し提供に努めます。

(2) 多くの人が集い地域の活力となる図書館

市民の学習意欲を喚起し、講座、講演会、演奏会、展覧会、読書および研究会など、様々な文化芸術活動が市民によって盛んに展開されるよう、図書館利用団体および図書館サポート隊などと連携し、多くの市民の方が利用される施設をめざします。

(3) 人と人がつながる図書館

職員が地域等に出向き、関係機関と連携することで課題を見つけ、その解決を促すような資料を提供し、サービスを展開することで同じ課題を持っている人と人とのつながりを可能にし、知の広場となるような働きかけをしていきます。

なお、児童サービスに力を入れ、子どもたちの言葉を育み、コミュニケーション能力を高め、想像力を養うために小さな頃から親子で絵本とふれあい、発達段階に応じた絵本を読み聞かせができる環境を創出し、また、生きる力を育むために、小・中学生の頃から読書の習慣を身に付けられるように学校と連携して事業を推進します。

4 活動計画（令和3年度）

(1) 本と出会い、心豊かに過ごせる図書館

ア 多種多様で豊富な資料の提供

魅力ある蔵書の構築をベースに、貸出、レファレンスおよび読書相談を促進し、市民の多種多様な読書要求に応えられるように取り組みます。

教養や趣味、楽しみに資する資料をはじめ、調査、研究にも対応できる専門書を充実させ、市民の学びを支えます。

(ア)蔵書数目標 38万冊（令和10年度末）令和3年度末見込み 373,000冊

(イ)最新の情報が得られる雑誌の充実

12月末現在 282種（購入231 寄贈42 スポンサー9）

(ウ)雑誌スポンサー制度の促進

(エ)データベース（デジタル資料）の利用促進

「農文協ルーラル電子図書館」（滋賀県立図書館保有データベース）

滋賀県立図書館が保有する「農文協ルーラル電子図書館」データベースを市町立図書館備え付けの端末で閲覧可能となりました。

「中日新聞・東京新聞記事データベース」

昨年度まで「Super法令Web」「官報情報検索サービス」を導入していましたが、利用頻度や情報の代替性を考慮し「中日新聞・東京新聞記事データベース」に変更しました。導入により過去の新聞記事（昭和64年以降）が閲覧できるため、地域に関するより広範囲なレファレンスに対応可能と

なります。

「日経テレコン 21」

過去 30 年分の新聞、雑誌記事を中心に、国内外の企業データベース、人物プロフィール等による幅広いレファレンス対応に利用していきます。

イ 居心地よい空間づくり

(ア) 学習コーナーの充実した利用の促進(ティーンズ用および社会人用の 2 か所)

【進捗】

新型コロナウイルス感染症拡大防止による学習コーナーの縮小や、社会人と学生の判別困難等により、ティーンズ、社会人のコーナーを区分することなくご利用いただきました。

利便性を向上させ、より多くの方に学習コーナーをご利用いただく方法を検討する中、令和 3 年 10 月から市内の 24 公共施設に「公共施設予約システム」が導入されることとなり、図書館の学習コーナーについては、12 月を目途に運用の開始を予定しています。

【課題】

導入後の Web 予約の流れを具体的にシミュレーションし、マニュアルの作成等を行い、スムーズに運用できるよう進めていく必要があります。

(イ) 利用者接遇の向上

(ウ) 適切な施設管理、メンテナンス (ハード面)

ウ 本との出会いをつくる各種コーナーの充実

(ア) 展示や特集コーナー (時事、季節) の設置

エ レファレンス、フロアワークの充実

(ア) レファレンスサービス、フロアワーク、書架案内等に十分に取り組むことができる体制づくり

オ 予約、リクエストの充実、迅速な処理

カ 図書館利用に障害のある方たちへのサービスの充実

(ア) 視覚障害者へのデイジー等郵送サービス、サピエ図書館の利用促進

(イ) 公開朗読会の充実

(ウ) 障害者への図書宅配サービス

【進捗】

郵送サービス登録者 (令和 3 年 9 月 30 日現在 18 人 (デイジー等・墨字))

4 月～9 月の利用実績

○デイジー等利用者 4 人

○サピエ図書館を通してデイジーの貸出 126 件 (枚)

○サピエ図書館よりダウンロードしたものを提供 2 件

○墨字図書の郵送利用者 2 人 8 件 (12 冊)

【課題】

現在は、すこやか生活課、速野会館、中洲会館、駅前総合案内所および市社会福祉協議会にチラシを配置しています。他自治体では障害に関わる業種（眼科、眼鏡店等）と連携し、図書館を紹介しているという事例もあり、それらを参考にしながら郵送サービスを必要とされる方への周知に取り組む必要があります。

(ア) 守山在住の外国人の方へのサービス（利用案内の作成、原語本の収集）

(イ) 病院との連携の充実（滋賀県立総合病院出張貸出）

【課題】

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年度から現在まで、滋賀県立総合病院への出張貸出を休止していますが、新型コロナウイルス感染症の収束後は再開する予定です。なお、感染が収束するまでは人的移動等を伴わない新たな連携方法について、同病院と協議・検討する必要があります。

キ 図書館利用に不便な地域にお住いの方へのサービスの充実

(ア) 速野会館および中洲会館での予約本の受け渡し等

(イ) 公共施設を活用した北部地域への図書館機能整備

(ウ) 中洲小学校での本の貸出の充実

(エ) 駅前総合案内所での予約本の受け渡し

(オ) 民間施設を借用した図書館機能整備の検討

(2) 多くの人が集い地域の活力となる図書館

ア 青少年が集う場づくり

中高生図書館サポート隊との協働により、ティーンズコーナーの充実をはじめ、本をとおしてつながりあう様々な催しを進めます。

(ア) 学習コーナー利用の中高生による図書館資料の利用促進

【進捗】

学習コーナーブース衝立部に、「国立国会図書館デジタルコレクション」資料検索・閲覧サービスの紹介を貼付し、学習コーナー利用者の調査研究、学習等に繋がるよう案内等に取り組みました。（参照資料1）

【課題】

昨年度は、勉強の合間に気分転換できるような本の紹介を行いました。今後とも引き続き、学習コーナー利用者が図書館の資料や、図書館サービスを利用していただきやすくするため、地道に紹介、周知を続けていく必要があります。

イ 文化・芸術・市民活動の促進

市民による講座、講演会、演奏会および展覧会等、様々な文化芸術活動が盛んに行われるよう図書館施設の利用を促進し、市民による気軽な発表の場であるよう努めます。

(ア) 図書館サポート隊との協働

【進捗】

図書館とサポート隊が連携し、協働事業を推進しています。

○図書館サポート隊活動紹介の展示（本の森正面階段）

○開館3周年記念に向けて、中高生サポーターによるクイズラリーの実施

○「わたしと図書館」と題したエピソードカードの作成、掲示

○3周年おめでとう動画の上映

【課題】

中高生サポーターについては、中学生から高校生になってからも活動してもらえる学生が少ないのが現状です。

よって、高校生のサポーターの増員を図り、さらに活動内容に広がりや深まりが見られるような取り組みを推進する必要があります。

- ・図書館施設の利用案内、周知

ウ 地域情報の収集と発信

守山市に誇りを持ち、住み続けたいと思ってもらえるよう郷土に関する情報を収集し、その魅力を発信することに努めます。

- ・守山情報コーナーの充実(市内各機関との連携、情報収集、整理)
- ・守山らしい地域の特性を活かした講座等の開催

(3) 人と人がつながる図書館

ア 児童サービスの充実

子どもと本を結ぶための活動に重点的に取り組みます。

- ・お話し会、ブックトークおよび子供向け行事の充実

【進捗】

おはなし会は、今年度もコロナウィルス感染症拡大防止のため、毎週水曜日の午後3時からのみ、定員は先着7席で、図書館サポート隊、図書館司書によるローテーションを組み開催しています。おはなし会の頻度や定員が少なくなったため、代替行事として昨年度8月より、おたのしみおはなし会&映画会を月1回、土曜日に開催し、毎回30名近い方にご参加いただいているところです。

また、感染状況に応じて、おはなし会や講演会を、リモートで中継することにより、定員数以上の方にご覧いただけるよう対策しています。目に触れやすいところで中継することで、興味関心を喚起し、参加促進を図っています。

【課題】

新図書館開館後、令和元年度は毎日おはなし会を開催していましたが、現在、週1回しか開催できていないのが課題です。原因としては、新型コロナウイルス感染拡大防止により、開催場所をおはなしのいえから集会室に変更したことによ

り貸館の利用と調整する必要が生じ、週1回の開催となりました。また読み聞かせボランティアもコロナ禍においては出控える方が多く、ローテーションが十分に組めない状況でした。

今後は感染拡大の状況を鑑み、開催頻度や定員の拡大を行う必要があります。

まずは、場所をおはなしのいえに戻すとともに、現在活動されているボランティアの活動しやすい曜日を設定し、おはなし会の回数を増加させてまいります。

また、現在28名の方がおはなしボランティアに登録されていますが、実際に活動されている方は10名前後です。今後は、おはなしボランティア養成講座の受講者の増加を図り、新たなボランティアを養成していく必要があります。

加えて、おはなし会の内容を幅広く充実したものとするため、著作権の許諾を得られるよう交渉等に当たります。

(ア)お話ボランティアの養成と資質向上を目指す講座等の開催

(イ)地域こども文庫への支援

(ウ)おすすめ本リストの配布

「図書館だより」（一般書新刊案内、各コーナーからのお知らせ、行事案内等）

「ほたるぶくろ」（児童書新刊案内、行事案内等）

(エ)市内各園および家庭的保育室、事業所内保育室への絵本セットの貸出「としょかんわくわくボックス」の実施

イ 学校図書館との連携

学校司書を図書館で任用、学校図書館との連携に力を入れ、学校図書館の活性化に取り組みます。

・中学校への学校司書巡回 4校1人

・小学校への学校司書巡回 9校3人

【進捗】

クラスごとに団体貸出を行い、各教室に本を配置しています。図書室の本でも不足する時は、市立図書館からも貸出を行い教室に本を配置することで、より身近に本を手にとってもらえる環境の創出に努めました。

図書室での読み聞かせは、昼休みの時間を利用し、市内すべての小学校で実施しています。

【課題】

9月末現在、図書室での読み聞かせは、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から休止しています。図書室の利用も制限されており、図書室を居場所としていた児童とのコミュニケーションもとりづらくなっています。今後も、学校、学校司書および図書館が連携を密にし、本と子どもを結ぶ活動に、引き続き取り組んでいく必要があります。

(ア)調べもの学習などでの団体貸出の実施

(イ) 学校図書館支援出前講座の実施

(ウ) 学校司書相談支援

(エ) 中高生の職業体験の受入

(オ) 図書館見学（全小学校3年生）の推進

ウ 子育て支援サービス

- ・ほっとステーション、子育てサロンなどへの出前おはなし会の実施
- ・館内での乳幼児向けわらべうたとおはなし会の実施
- ・乳幼児健診などでの絵本のリスト、図書館案内の配布

エ 健康医療情報サービス

- ・滋賀県立総合病院のがん相談支援センターとの連携（図書館での出張がん相談、患者サロン、講座の開催）
- ・滋賀県立小児保健医療センターでのおはなし会
- ・滋賀県立総合病院への移動図書館の実施

オ 起業就労支援サービス

- ・図書館内カフェとの連携事業の促進
- ・木もれび広場での起業・就労支援関係事業の促進

カ 図書館サポート隊との連携

- ・講座、講演会、コンサート、展示会等を企画、主催し市民に広く公開
- ・「としょかんかざり隊」「本おなおし隊」の実施
- ・市内お話ボランティアの交流と活動支援
- ・絵本の読み聞かせ
- ・朗読ボランティアと協働の朗読会の開催

キ 図書館と他団体との連携

- ・文学・歴史講座、児童図書研究講座の実施
- ・他団体等と協働した新しい講座の企画開催

ク 他機関との連携

- ・庁内関係課のイベントとの連携（起業創業就労支援、ルシオール、関連図書展示など）
- ・図書館内カフェとの連携事業の開催（サロン、セミナー、講演会、サイン会他）
- ・滋賀県立総合病院との連携（健康医療情報コーナーとも関連）

(4) 利用対象者の拡大

- ・市内公立病院への通院患者、入院患者の方も対象に追加（ただし、年度ごとの更新とする）
- ・ふるさと納税制度を活用し、本市に寄附された方に貸出カードと読書通帳の発行
- ・ホームページ、広報もりやま、有線放送、各種プレス、デジタルサイネージ等の広報媒体の積極的な活用

(5) 読書日本一のまちづくりへの取り組み

守山みらい懇談会からの提言書

「提言6 読書を楽しむ」⇒「ビジョン6 読書日本一のまち」

図書館を中心に読書を通して豊かな生活、人生を送ることができるよう、市民の皆さまがより広く深く読書に関わることができる「読書日本一のまちづくり」に取り組めます。

- ・ 出版社による講演会
- ・ ビブリオトークの開催
- ・ 専門分野講座の開催
- ・ 図書館未利用者への周知、利用促進の働きかけ
- ・ 学校図書館機能の充実
- ・ 北部図書機能の充実に向けた施設整備の検討等
- ・ 乳幼児から高齢者まであらゆる年齢層へのサービスの充実
- ・ 子ども読書活動推進計画の実現
- ・ もりーカー、バス等、図書館への交通網の周知
- ・ 図書館サポート隊との協働
- ・ 市内書店への働きかけ

【進捗】

令和3年度、「読書日本一のまちづくり」に向けた活動計画では、市民に本や読書の楽しさを知っていただくことを目的に、出版社による講演会や専門分野講座、ビブリオトーク等を開催します。また、本との出会いやきっかけを作るとともに、本が手に取りやすく、読みやすい読書環境を作るため、学校図書館の機能充実や北部図書機能の充実に向けた施設整備の検討等に取り組んでいます。

図書館サポート隊との連携・協働も開館から3年目を迎え、より連携が深まり、開館3周年記念イベントの実施等、コロナ禍においても本と人を結びつける様々な活動に活発に取り組んでいます。

【課題】

未だに図書館を利用されたことのない市民に、一人でも多く来館していただき、今後も引き続き、広報媒体を活用し、未利用者への働きかけや掘り起こしに取り組む必要があります。

また、北部図書機能のコンセプトである乳幼児から高齢者までの皆が集い、北部地域全体の活性化と住民交流に寄与する施設となるよう、図書館の活動計画や、蔵書整備等について学区の皆様をはじめ、庁内および議会の皆様とも協議しながら、スピード感をもって進めていく必要があります。

「第5次守山市総合計画基本計画」における数値指標（案）

○市民一人あたり貸出冊数（年間貸出冊数÷守山市人口）

令和7年度 16.0冊（令和元年度 11.9冊）

○人口に占める実利用者比率（年間実利用者数÷守山市人口）

令和7年度 30%（令和元年度 21.9%）

(6) ICTを活用した情報提供

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、新しい生活様式が求められる中、ICTを活用したおはなし会、行事や本の紹介、施設利用のオンライン化等を促進します。

(ア) 動画によるおはなし会等

【進捗】

市内小学校の図書館見学が、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、大人数での来館が難しい状況の中にあっても、子どもたちに図書館を紹介し、利用促進に繋げるため、図書館サポート隊「守山ビデオクラブ」様の撮影・編集をいただく中、学校に居ながら図書館見学ができる、DVDが完成いたしました。また、図書館から遠く、来館が難しい小学校の児童達も、動画を通して容易に図書館見学が可能となります。

【課題】

DVDでの図書館紹介は一方向になってしまうのが課題です。子どもたちの表情や疑問点等がつかみ難いため、それを解決する方法としてZOOM等リモートでの質疑応答等のやりとりを組み合わせることも可能であることから、図書館司書と子どもたちがリモートで直接話すことで、より児童が図書館や本に親しみを持てるような仕掛けや取り組みが必要となります。

(イ) タブレットを使った折り紙の折り方動画紹介、プロジェクターを使った本の
なおし隊講座（修理方法紹介等）、新しい形の講座の開催

(ウ) ホームページを活用した読書案内

(エ) 貸館予約等のオンライン化

(7) 職員の資質向上

ア 図書館利用者が居心地の良い図書館を実感できるよう、職員の接遇の向上に取り組めます。

イ 社会情勢、出版動向に注視するとともに、新聞雑誌の書評などのチェックを行う中、職員の選書能力の向上に努めます。

ウ カウンターや書架、予約、リクエスト等、常に利用動向を意識した選書に努めます。

エ 各学区の地域課題を発掘し、情報収集に努めます。

オ ブックトーク、素話、読み聞かせなどの技術習得のために職員の資質向上に努める。

カ 県内外の研修等に積極的に参加し、職員の資質向上に努める。

キ 館内研修（レファレンス、児童サービス、クレーム対応、危機管理等）を定例化し、職員の資質向上に努める。

ク 図書館に対するご意見（アンケート箱やメール、カウンター、フロア、電話）を図書館職員で共有するとともに、対応策、改善策等を協議・検討し、より良い図書館となるよう取り組んでいく。

【進捗】

令和3年度 研修実績と今後の予定

5月	絵本の読み聞かせ、接遇
6月	ブックトーク
7月	ストーリーテリング
8月	避難訓練
9月	レファレンス
10月	ブックトーク
11月	レファレンス
12月	著作権
1月	図書館の自由
2月	避難訓練
3月	わらべうた・手遊び

【課題】

自然災害・停電等、来館者の安心・安全を確保し、来館者のニーズに応えるべく、職員が絶えず意識し、有事に備え平時からシミュレーションし、定期的な訓練に取り組む必要があります。